

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770103758		
法人名	社会福祉法人大阪福祉会		
事業所名	ハピネス金岡グループホーム		
所在地	堺市北区金岡町2725番地		
自己評価作成日	平成24年3月1日	評価結果市町受理日	平成24年7月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成24年4月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域ごとの交流を大切にしており地域の学校での運動会の見学や秋祭りの見学、中学生の職場体験を受け入れている。春と秋にはボランティアの協力を得て大泉緑地の散歩を行っている。梅見学や菜の花摘み、さつま芋掘りやジャガイモ掘り、みかん狩り等の季節を感じとれるような企画を立てている。また、おやつ作りを利用者と一緒に行い何を作るかという事から一緒に考えて楽しんで頂いている。日常生活では、利用者一人一人の出来る事を活かしたケアを行いADLの維持向上に努めている。レクリエーションでは一人一人出来る事をして頂き入居者全員で一つの作品を作りあげて達成感や充実感を感じて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は運営者の思いで特別養護老人ホームを初めに通所介護、訪問介護や居宅介護支援の各事業を同敷地内で運営し、総合的な介護事業を展開している。グループホームは平成14年に1ユニットみずきの里を平屋で開設し、平成17年に2つ目のユニットさつきの里を別棟の2階で増設した。2つのユニットはレイアウトは違うもののユニット名のみずきとさつきの木を玄関付近に植え、その見事な花のように両施設は田園風景に囲まれた中で日々「地域に愛される施設、心ある介護」を実践している。運営者の農園で土に触れ合い、野菜を作り、季節ごとに収穫した物を料理して楽しく食事をするという家庭的な環境を大切にしている。地域で診療所も運営し、健康面でも安心である。日常的な外出はもとよりボランティア受け入れや地域の方々との交流も積極的に行っている。

vunitto

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛される施設、心ある介護」という理念をリビングに掲げスタッフはもちろん入居者様や家族様にもわかるように掲示し実践につながるよう努力している。	理念達成の指針5項目と運営方針2項目の文章が入った「愛される施設、心ある介護」と謳った法人理念を掲げ、職員会議等でくり返し共有して実践につなげている。	法人理念を大切にしながらも、開設10年の現状にあった事業所独自の理念を皆で話し合い作りあげていくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での秋祭りの見学や地元の小学校での運動会の見学、中学校からの職場体験の受け入れをしている。また、近隣への散歩を欠かさず行い道で出会った方には挨拶もしている。	日常的に田畑を散歩した時、挨拶を必ず行うことで野菜等を頂いたりして親しくなっている。事業所は「高齢者おたっしや教室」を毎月開催したり、夏祭りの時に場所提供をしたりしている。地域で法人運営の保育園児が訪問されたり、近隣の小学校の運動会の見学に行くようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設在宅介護支援センターで2カ月に一度高齢者おたっしや教室を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みについての報告を行い、それに対する意見を参考に日々の業務への参考にしている。	家族・利用者の代表、地域包括センター、民政委員、知見者等の参加を得て昨年も年6回開催されている。利用者の状態変化等を報告し、意見を出来るだけ聞き、サービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域のグループホーム連絡会や市全体での連絡会にも参加して情報交換や意見交換をしている。	区の担当者や地域包括センターに機会あるごとに実情報告をしている。困難事例に関しては相談をして助言を得るように努めている。地域のグループホーム連絡会等に参加し、情報を得たり、交流を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内での研修やスタッフ会議を通じてスタッフ間での取り組みについての確認をしている。玄関や居室は鍵をかけない取り組みをしている。	法人マニュアルに基づいて定期的に研修を行い、職員は共有している。玄関は施錠していない。2階は二重の入口があり奥の入り口は階段の問題で安全の為、ロックされている。外出シグナルに職員は即対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で研修やスタッフ会議で人権についての勉強会を行い理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ会議を通して成年後見人制度について学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をとり契約までに理解と納得を得るように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置しておりまた、家族会の開催をして家族様との意見交換の場として意見を参考にしている。また、普段の家族様の面会時にも話す機会を設けて意見を聞き出せるようにしている。	家族の来訪時には出来るだけ意見を聞くように努めている。利用者・家族が意見を言いやすい環境に配慮している。家族会も定期的に行っている。些細な要望でも記録し、場合によっては職員会議で対応を話しあっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議に参加してスタッフの意見や提案を聴き出せるようにしている。	施設長が個人面談を定期的に行い職員の要望を聞くようにしている。職員はリーダー・管理者とコミュニケーションが良く、意見を言える環境が築かれている。事業所は真摯に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ会議の場に参加して現場の意見や要望を確認して良い方向へ向かうように助言や指導を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月各テーマに沿った研修を法人内で実施している。各部署でのテーマの振り分けも行うスタッフの勉強の機会になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム連絡会を通して情報交換や意見交換の場として活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なく生活が送れるように初期の段階から話し合いを重ねて不安を取り除けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた時点で入居者様がより良く過ごせるように家族様の意向や不安に感じている事等を伺い解決できるように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅支援センターとの連携を取り、適したサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の生活状態や家族関係等の情報も得て本人様にとり生活歴を尊重した生活を支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の意向やお話を聞いて共に考えている。また、施設での行事には、参加をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の面会以外でも、友達等の訪問も特別な場合を除いてして頂いている。	利用者は馴染みの喫茶店や美容院に出かけたりしている。以前住んでいた近所の友人が訪問されており、事業所も歓迎している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で孤立しないように入居者同士でのトラブルには注意をしつつ他者との関わりも大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院し退居となった場合でも病院の相談員とも連絡をとり家族様には不安を感じないようにフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を確認して意向にそった暮らしが出来るように支援をしている。また、家族面会時の何気ない会話から希望や意向を聞き出せるようにしている。	職員は1人ひとりの過去の生活歴を把握し、日々利用者の思いを聞くように努めている。聞きづらい方には家族の情報を得たり、利用者により寄り添うことで本人本位の意向を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表を活用し、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント表や個々のケース記録を活用して日々の過ごし方について把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの開催を通して他ユニットスタッフも参加できるようにして情報の共有に努めている。また、家族面会時等は日常生活の様子を伝えるようにしている。	計画作成者は常勤で日々、利用者の健康面の状態把握をしている。3ヶ月に1回は関係者と相談しながら計画の見直しを行っている。急変時には即計画の見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録をもとにカンファレンスを行いケアプランの見直しを行っている。ケアをするスタッフが記録物に目を通す事を徹底して統一したケアを出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスでの行事に参加している。また、身体的や経済的な要望については特養とも連携して柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランティアの方が定期的に来所して下さり楽しい時間を過ごせている。パン販売も月2回あり皆様楽しみにされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の診療所がかかりつけ医となり連携体制をとっている。入居前のかかりつけ医の往診を受けている方もいる。	入所前のかかりつけ医に受診希望の方はその支援を行っている。協力医療機関は法人が運営している診療所と総合病院及び歯科医院である、利用者は24時間、健康面で安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の診療所と連携をとり日々の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は病院の相談員や医師とも連絡をとり状態の把握の行い早期退院が出来るように支援する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は対象者はいないが、入居時の契約時に医療体制及び終末期の対応について説明を行っている。家族様には状態の変化が生じた際に随時報告を行うようにしている。	重度化や終末期への対応は入所時に家族に医療体制や事業所の出来ることを説明し、同意書をとっている。今後も併設の特別養護老人ホームと一緒に職員の研修を重ね、利用者や家族の希望に出来るだけ添うように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修やスタッフ会議で緊急時の対応について勉強会をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月災害を想定した避難訓練を実施している。また、年2回は消防署の立ち合いのもと施設全体での訓練も実施している。また、有事には近隣の方々にかけつけてもらえるよう要請している。	毎月災害を想定した避難誘導訓練を実施して職員の意識を高めている。年2回は施設全体の訓練を消防立会いのもとで行っている。施設は地域の避難場所となっており、災害時に近隣の協力も呼びかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	食べこぼしや排泄の失敗については周りや本人への配慮をした声掛けを行いプライドや自尊心を傷付けないようにしている。	職員はプライバシーを損ねる利用者への言葉掛けに気付いたときは互いに注意をしようとしている。個人情報保護やプライバシーの確保に関する研修も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に自己表現が難しい方についても本人様の気持ちをくみ取れるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人での生活リズムを尊重している。季節の作品や歌。ビデオ観賞などを楽しんで頂いている。また、居室で過ごす等の時間も本人様に合わせて過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、散髪や美容室があり入居者様の意向に応じて利用して頂いている。また、洗顔やブラッシングなどを希望や意向を踏まえて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや下準備など出来る事を入居者様に手伝って頂いている。	食材は業者から仕入れ、職員はローテーションで手料理を作り、一緒に楽しく食事をしている。定期的に利用者の希望を聞いた料理を作り、利用者は下準備、調理、片付けを出来る範囲で手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は調整を個人に合わせてしている。また、状態に合わせて荒刻みにしたりお粥を提供して食べやすいようにしている。水分はこぶ茶やココア、しょうが湯などお茶以外にも季節に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけを行い口腔ケアをして頂いている。介助も必要に応じて行うようにしている。在宅の時の訪問歯科の往診を継続して受けている方もいる。義歯の方には夕食後にお預かりして義歯洗浄をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的トイレの声かけ行いトイレに行くという意識を頂いています。また、直前の行動や排泄パターンを把握してさりげない声掛けが出来るようにしています。	入所前に紙パンツ使用の利用者が布パンツに改善したケースがある等、自立で排泄が出来るようにトイレ誘導を大切に行っている。排泄パターンを職員は共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の散歩やラジオ体操を行い身体を動かす機会を作っています。また、食事面でも野菜を摂ったりヨーグルトなどの提供をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、午前か午後の入浴については体調や入居者様の意向や体調に合わせている。	週3回は入浴出来るように支援している。入浴日は決まっているが時間は希望や体調にあわせるようにしている。嫌がる利用者もさりげない誘導で楽しい入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決まっているが就寝時間は自由にしている。畳部屋もあり畳に布団を敷いて寝られる方もあり個人の生活習慣を大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方箋がありそれを定期的に確認できるようにしている。臨時薬や追加の薬については、看護師の指導のもとスタッフと確認して内容の確認が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族様との関わりや入居者様との関わりの中で一人一人の楽しみや好きな事を引き出してケアが出来るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事以外でも近隣の喫茶店や食材・生活用品の不足などがあれば、近隣のスーパーへ買い物に行くなどしている。芋掘りや菜の花見学など季節に合わせた外出を企画している。	日常的な外出は田畑への散歩である。買物や喫茶店にもよく出かけている。花見や紅葉狩り並びにボランティアの協力で大泉公園等の外出も定期的に行っている。運営者の農園に行き、土いじりをして野菜を作り収穫して調理するのが大きな楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や飲食の際にはスタッフではなく入居者様に支払いをして頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方にはスタッフが電話をかけてから入居者様にとりつないでお話しをして頂いている。家族様からの電話でも希望があれば、お話しをする時間を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に旬の野菜や食材を使った料理を作っている。また、壁飾り等の作品は季節感が伝わるようにしている。	2ユニットのレイアウトは違うが共用空間はゆったりして広く、落ちついて過ごせる空間となっている。玄関付近に見事なみずきやさつきの花が咲いている。壁には利用者の手づくり作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で部屋やソファで過ごせるようにしている。また、気の合った方どうしても過ごせるようにリビングに談笑スペースも作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、今まで使われていたタンスや家族の写真を持ってきて頂いている。居室が今まで過ごしてきた環境に近づくように配慮している。	馴染みのタンスや家具・仏壇などを持ち込み、家庭的な環境作りを支援している。窓から見える田園風景は素晴らしく大きな癒しとなっている。利用者の希望で畳の部屋も作って支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室、トイレには手すりがあり、バリアフリーになっている。車椅子の方でも自由に動けるようになっている。また、トイレにはわかるように表札をしている。		